

生涯にわたって 社会のいたるところで学ぶための方法序説

生涯終盤の学習課題とは？

松田 道雄

提案…公民館などでの高齢者教育において、自身の健康や相続などに関する終活とともに、当事者としての介護の課題に関わる学習も、社会福祉協議会と連携して行ってみましょう。

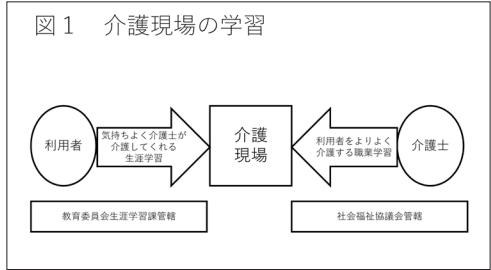
新年度になりました。読者皆さんも気持ち新たに新年度の事業スタートされていることと存じます。今月も先月に続いて、松田が皆様に一つの提言さしあげます。日本は高齢社会の先進国です。どんどん長生きする中で、これまでの高齢者教育の理論や実践のあり方も変わっていかねければなりません。そこを担うのも、高齢先進国の日本の生涯学習の役割の一つではないかと思えます。平日の日に、生涯学習の拠点である各地の公民館に足を運んでいる主役は、元気な高齢者の方々です。公民館での高齢者向けの学習として主に行われているのは、介護予防として健康でいられるための学習（運動など）、趣味などの生

きがいや仲間と楽しむ学習、相続など自分の死後次世代へ残すものの整理や手続きを知る学習などが中心ではないかと思えます。一方で、公民館から一歩離れて、高齢者に関わる状況を見渡すと、介護の現場での介護職不足は深刻です。行政組織の縦割りによって、同じ高齢者についての施策・事業も、教育現場からは福祉の状況がわからず、福祉の現場からは教育の状況はわかりません。

そこで、今年度、筆者はそこをつなぐ試みも考えました。資料のアンケート項目です。これは、現在高齢者の介護職に従事している方々に尋ねるアンケートを作成したものです。昨年度、先行的に40名ほどの方に答えてもらった結果が、資料のグラフです。筆者は、介護職など福祉に携わる方々の職業教育としての研修にも参加していますが、介護職の方々の努力では何ともできないことがあることを感じています。それは、利用者（高齢者）の方々の問題（学習）で

す（図1）。アンケート設問4と5の結果のグラフがそのことを示しています。将来誰も（筆者も）が介護の世話になるかもしれない私たち（高齢者）が、介護職の方の思いを学習教材として汲み取りながら利用者側として学べきことを自覚するということは、これまでなかったのではないのでしょうか？ と同時に、福祉の現場にとっても、このアンケートにあるような介護職員の思いを汲み取る機会も少ないのではないかと思います（かりにとったとしても、自分たちの努力で解決できることではないので）。

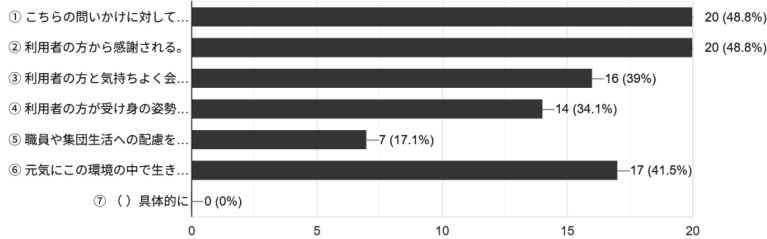
また、アンケート設問の6と7は、介護施設での利用者の生活に、公民館的な学び合いやつながりづくりの様相を取り入れる可能性について質問した内容です。今年度、このアンケートを、各地の社会福祉協議会の協力をいただいで実施し、調査数を増やすつもりです。もし、このアンケートに関心あり、その結果を今後の高齢者学習に生か



4 利用者である高齢者の方との関わりへの感想をお聞かせください。どのような時に、あなたは仕事のやりがいや喜びを感じますか？ あてはまる項目をすべて選んでください。

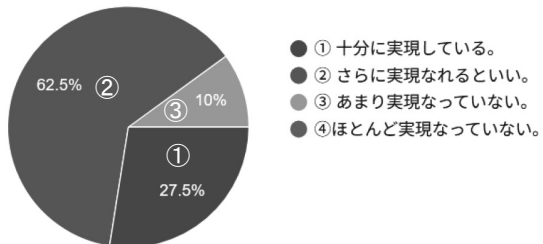
- ① こちらの問いかけに対して、利用者の方が明るく・温かく対応してくれる。
- ② 利用者の方から感謝される。
- ③ 利用者の方と気持ちよく会話できる。
- ④ 利用者の方が受け身の姿勢だけでなく、何か能動的な態度をとってくれる。
- ⑤ 職員や集団生活への配慮をしてくれる。
- ⑥ 元気にこの環境の中で生きようという気持ちを持っている。
- ⑦ () 具体的に

41件の回答



5 4（利用者である高齢者との関わりによって、あなたが仕事のやりがいや喜びをどの程度感じるか）について、あなたの現状はどうですか？

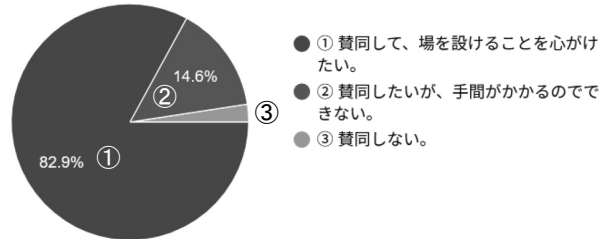
- ① 十分に実現している。
- ② さらに実現なれるといい。
- ③ あまり実現っていない。
- ④ ほとんど実現っていない。 40件回答



6 利用者的高齢者の方が、他の利用者の方などに、趣味や特技を披露したり教えたいという要望があれば、どう対応したいですか？

- ① 賛同して、場を設けることを心がけたい。
- ② 賛同したいが、手間がかかるのでできない。
- ③ 賛同できない。

41件回答



7 利用者的高齢者どうしが交流したり、相互扶助する場面は、奨励しますか？

- ① 積極的に、奨励したい。
- ② 奨励したいが、手間などがかわるのでできない。
- ③ 奨励しない。

41件回答

